

漁師が木を切る～♪ ～森・川・海連携環境復元事業～

高知県海洋部

か つ お 通 信

高知市丸の内
高知県海洋部
発行人 坂東 隆志
編集人 海洋 企画課
定 価 無料



紅葉を楽しみながら現地へ(行きはよいよい?)

■事業の概要
高知県の河川における漁業生産量は、過去10年で1/3以下に激減し、近年では7百トン前後と低迷しています。この原因としては、河川環境の悪化、外来魚やカワウによる食害、疾病の蔓延等があり、現在でもこれらに対する対策を講じています。
しかし、山林に源流を発し最終的に海域に流れ込む河川では、単に河川だけに、水産という一

分野からの対策を講しても根本的な解決には至らず、山川海という水や物質の循環に着目した総合的な視点での取り組みが必要という考え方が広がってきています。
この様な考え方を元に、海洋部では「森・川・海連携環境復元事業」を本年度から立ち上げ、河川でのアユの産卵場造成や海域のゴミを回収する掃海作業に加え、山川海の関係者の交流の促進等を行っています。

■漁師、山に登る

この取り組みの一環として海の漁業者が間伐作業を体験した山林は、絶縁用コンデンサー紙の世界シェア一位を誇るニッポン高度紙工業(株)が平成15年に水源涵養林として購入した安芸市畑山五位ヶ森。安芸地区の機船々びき網漁業者、この山林に源を発する安芸川を漁業権に持つ芸陽漁協組合員、ニッポン高度紙の社員、安芸市森林組合員、安芸市役所職員、海洋部職員の総勢50名



間伐後の森林



汗を流した後の食事は最高!



森に長靴はミスマッチ?

日頃の運動不足を露呈する海洋部職員

が参加しました。
現地は安芸市内から車で1時間、途中からは悪路のため四輪駆動車でピストン輸送となりました。森林組合の方から作業の説明を受け早速作業を開始。きつい傾斜と慣れないノギリに皆さん悪戦苦闘していました。

県1漁協を推進しましょう

- 購買は漁協を利用しましょう
- 預金、公共料金は信漁連へ

また、作業を行う場所の距離感がうまく掴めず木が倒れる度に、あちこちから「当たるゝ危ないぞ〜」という声も。昼食を挟んで約2時間の作業でしたが、大汗をかきながら漁師は船に乗っちょっても椅子に座っちゅうき運動不足よ〜と泣きが入る方がいる一方、「おまんはど〜へ行っても違和感がない、すっかり山師じやの〜と冷やかされるほど、なりきっている方もいました。



大漁旗をバックに記念撮影

■一層の連携を

河川で重要なアユ、ウナギの生息には、その生態から海は欠かすことは出来ず、機船々びき網漁業にとっても、河川付近の海域は好漁場として欠かすことは出来ません。
「今回の間伐体験が山のことを考えるきっかけになった」という声もあったように、今後山川海の連携を深める取り組みを進めていきます。

流通改善・販売促進はお任せを!

水産物を売り出したい、一次加工をしたいなどの相談があれば、まずはお電話下さい。選りすぐりのスタッフを直ちに急行させ、きっとあなたのお役に立ちます!

- 室戸漁業指導所 TEL 0887-22-0645
- 中央漁業指導所 TEL 088-856-1164
- 土佐清水漁業指導所 TEL 0880-82-0569
- 宿毛漁業指導所 TEL 0880-67-0767

【編集後記】
幼少期、父親に枝打ちや下草刈りによく連れて行かれた。遊ぶ時間も削られ嫌だったが、久しぶりに山に入って懐かしい記憶が甦ってきた。山で食べた弁当の味、摘み取った茶の香り、疲れた自分を背負う父親の背中……たまには墓掃除にも行くかな?

【コラム】
「人類の業」
「アユ元副大統領のノーベル賞受賞、海面上昇により世界で一番始めに水没する国オゾンホールの拡大等々環境保護の話題が報じられない日はない。一方ある企業は排出するCO2を地中深く押し込み、従来採取不可能だった化石燃料を取り出すという、現状を顧みない暴挙で利益をたたき出す」としている。煩惱を捨てられない「ヒト」は文明と環境を共存させる術は持たない